

2025年度 第3回 藤沢市立片瀬小学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2025年10月16日（木）10時～

場 所 片瀬小学校みんなの教室

出席委員	<p>松本 眞理子（会長・片瀬地区主任児童委員）                  池田 亜津子（副会長・片瀬小学校校長）                  渡邊 智恵子（片瀬地区青少年支援フォーラム会長）                  長谷部 由起（片瀬地区青少年支援フォーラム）                  長坂 訓子（片瀬地区青少年支援フォーラム）                  石渡 裕司（元小学校校長）                  杉下 由輝（片瀬こま保存会事務局長）                  服部 功志（片瀬小学校同窓会会長・常立寺住職）                  森井 理恵（片瀬市民センター長）                  矢野 佳代子（藤沢市社会福祉協議会 CSW）                  高橋 道陽（片瀬小学校教頭）</p> <p style="text-align: right;">以上11名出席（欠席1名） 傍聴人 なし</p>
次第	<p>1 開会                  2 会長あいさつ                  3 議題                  （1）学校の近況について                  ・2学期の取り組みについて                  ・令和7年度全国学力・学習状況調査結果                  （2）今後の予定                  ・運動会10月25日（土）8:50 開会式                  （3）その他                  ・これまでの地域学校協働活動                  ・これまでの居場所、ひだまり教室など                  4 閉会</p>
議題	<p>（1）学校の近況について                  ◆2学期が始まって                  ・修学旅行の様子                  ・八ヶ岳の様子                  ◆令和7年度全国学力・学習状況調査結果                  ・国語や算数が楽しいと回答した児童が多い。                  ・ICTの授業での活用については平均より下回っている。                  ・読書や生活習慣は平均より上回っている。図書館、図書室が大事である。                  ・「地域の大人と関わっているか」の問いには28%が「関わっている」と回答した。全国より10%ほど高い。                  ・「地域のために何かしたいか」「まあしたい」も合わせると80%。地域への意識はある。</p>

(松本会長)

「そらいろのたね」の各クラスでの読み聞かせの活動が、読書につながっているのではないか。

(池田副会長)

片瀬小では、低学年だけでなく、高学年にも、読み聞かせが定着している。それが、本への興味関心を高めることとなっているように感じる。

(長谷部委員)

他の学校では、タブレットを毎日持ち帰って、宿題をやっていたりする。片瀬小学校は今後どうなるのか。

(池田副会長)

学校では、GIGA スクール構想に基づいて、ICTを進めている。デジタルドリルを導入していると、宿題をするために、タブレットを家に持ち帰っている。片瀬小ではいまのところデジタルドリルにする予定はない。タブレットの持ち帰りでは、ネットモラルの指導が大切になってくる。

(2) 今後の予定

運動会の受付とパトロールもコミスクで受けていただき、感謝している。

(3) その他

◆地域学校協働活動

(長坂委員)

遠足の付き添い補助、学校に関わっている人としてインタビュー、プール清掃、ミシンの補助(5、6年)を行った。今後は、運動会の受付とパトロールを予定している。

(渡邊委員)

ミシン補助に入っていて、先生たちが子どもたち一人一人に配慮し、子どもたちの心地よい居場所になっていることがわかった。

(池田副会長)

児童一人一人、事情が違うので、対応もそれぞれ異なり、その児童にとって適した対応や環境を提供するようにしている。

(長坂委員)

地域の人として教室に入ると、最初は子どもたちとの距離を感じたが、こちらから声をかけていくと「これがわからない」「〇〇のやり方教えて」など、気軽に声をかけてくれるようになった。

(長谷部委員)

昨年より地域の人への垣根が低くなったように感じる。

(渡邊委員)

各クラスの人数が多い中、さらに様々な子がいるとなると、各クラスの子どもたちの人数を減らして、担任が子どもたちを把握できる環境にしていくことが大切だと感じる。

(服部委員)

夏休み3回寺子屋子ども食堂を行った。午前中2時間、夏休みの宿題をすすめ、お昼は弁当を無料で提供した。1回目25人、2回目23人、3回目20人。片瀬の子だけでなく、鶴沼海岸の子も来ていた。午後は、射的やヨーヨーすくいをして楽しい時間にした。共働きで、一人で家にいるような子ども、お昼ご飯を子

どもにだすのが難しい家庭に場所を提供したい。そのような子どもたちにどのようにアプローチするのか検討中。知恵があったら教えてほしい。

(森井委員)

子どもセンターから、チラシを見て、行きたいという問い合わせが1件あった。

(杉下委員)

児童クラブの運営委員をおこなっていたことがある。その時も、児童クラブに入れない家庭へのサポートが課題になっていた。普段は学校が課行中はなんとかなるが、夏休みになると、家庭での滞在時間が増えるため、共働き世代は困っている。児童クラブへの問い合わせや申し込みは、みらい創造財団が担っているので、情報があるのではないか。

(池田副会長)

学年が上がったり、家庭の事情があったりと、児童クラブをやめる子もいる。しかし、そのような家庭でも夏休みだけは困っているという声を多く聞く。そのため、8月のみ児童を受け入れていたクラブもある。

また、夏休み中に、小学生をお手伝いとして受け入れている保育園もある。

(矢野委員)

社教でも夏休みの居場所として開放した。しかし呼びかけたのはCSWに関わっている子だけであった。アイデアを出し合って、生活に困窮していたり、一人で過ごし困っていたりと、こういう人に来てもらいたいという取り組みにできると良いと思う。

(松本委員)

ひだまり教室。塾に行っていない子を限定としている。募集人数より多くの応募があるため、抽選をしている。しかし、運動会が終わるまでは仕方ないが、学校の行事と重なるとお休みする子が多いのが悩みである。抽選でもれた子もいるので、ちゃんと来てほしい。

(杉下委員)

学校では環境学習についてはどのように取り組んでいるのか。現在、企業では人材を確保するに当たって、飛行機の燃料にバイオマスや廃棄物を使うなど、環境への配慮や貢献をしていないと選ばれないという話を聞いた。

(池田副会長)

教科書や副読本「ふじさわ」は活用している。とくに、4年生では環境について学習し、パッカー車に来てもらったり、ゴミ処理場に見学に行ったりする。5、6年生になると、調べ学習の中でSDGsや地域の環境について勉強をしている。個人的には、片瀬小は海に近く、江ノ島もあるため、海の環境教育について取り組んでほしいと思う。

(長谷部委員)

学校やPTA、地域の中で、ペットボトルのふたや着なくなった服、プリンターのインクを集めたりしていることで、捨てるものにも価値があるものもあるということを子どもたちは知っている。

4 閉会

次回開催予定 2025年 12月 5日(金) 10時～  
場 所 片瀬市民センター